

第2章 情報企画室図書担当

【構成員】

担当教授(兼):米永 一郎

図書係長:勝本 加奈子/図書系職員:小林 真理絵/事務補佐員[3名]

【図書整備委員会】

委員長 准教授:木口 賢紀

委員 准教授:鳴海 康雄

助教:徳本 有紀, 西岬 照和, 伊藤 暁彦, 安 東秀, 松本 洋明

オブザーバー 教授:米永 一郎

総務課長:星 雄蔵

1. はじめに

図書室では、1800年代から今日までの材料科学に関する幅広い領域の資料を収集・所蔵している。金研が歴史的に金属・材料研究の中心であり、また全国共同利用研究機関であること、さらに物質・材料学では世界の最先端に位置することから、所内・学内はもとより国内外の研究者の来訪も多く、図書室は幅広いサービスを提供している。

2. 組織・運営

図書室は、図書係として金研事務部総務課に属し、係長を含む職員2名と事務補佐員3名で業務を行っている。その運営は情報企画室のもとで行われ、専門委員会である図書整備委員会と連携して進められている。

業務の特徴として、部局図書室としては唯一本学附属図書館本館を介さない図書購入・受領→支払→目録・分類→登録の体制を維持し、研究者へ迅速に資料を提供している。また学術情報の整備を適切かつ計画的に行うため、若手教員を中心とした図書整備委員会と連携し、利用者の視点に立った整備を推進している。

図書整備委員会は、1996年に「図書電子化小委員会」として発足し、2004年には所内委員会「図書電子化委員会」となり、2010年3月に現在の名称に変更された。委員会では、研究者の立場から専門資料の選定やデータベース環境の整備を行うと同時に、利用者への広報・ガイダンス等、図書室職員への日常的サポートを担ってきた。このような研究者と図書室とが連携して情報整備を行う委員会の存在は学内唯一であり、特筆されるべきことである。

外国雑誌価格の高騰や、二次情報データベースの多様化など、様々な問題に係る取り組みが全学的に行われる現状において、利用者ニーズを的確に把握し、かつ親しみやすい快適な図書室であるよう常に心掛けている。

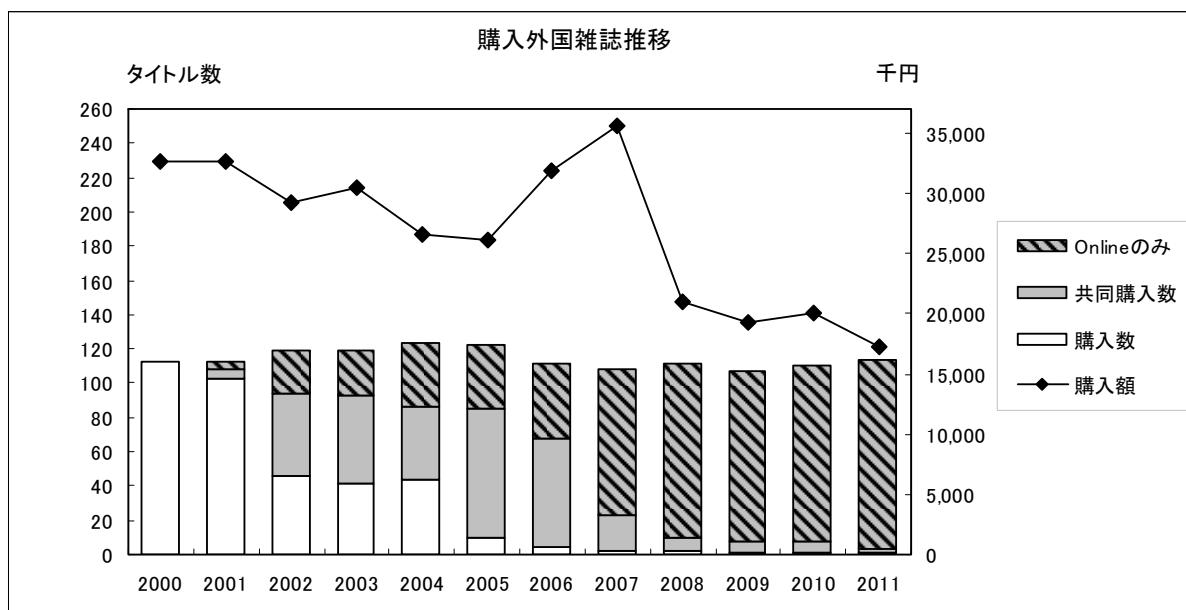
3. 購読雑誌および電子ジャーナル

東北大学では、2001年のAPS誌共同購入を皮切りに、外国雑誌を中心とした全学共同購入と電子ジャーナル整備が、附属図書館の「学術情報整備計画」の下で段階的に進められてきた。

図書室ではこの整備計画に従い、電子ジャーナルのみの契約への切り替えなど、外国雑誌購入費抑制のための努力を積極的に続けてきたが、雑誌価格の高騰は止まらず、2007年には共同購入制度開始以前の購入費を超える状態となった。しかし、2008年から電子ジャーナル経費として全学的基盤経費が2億円措置されるようになり、ようやく部局の負担が緩和された。

しかしながら、外国雑誌価格は毎年約5%の値上がりが続いており、近年の円高傾向によりその影響が緩和されてはいるものの、抜本的な対策が必要である。以前図書室で冊子体として購入していた雑誌タイトルの9割以上が既に電子ジャーナルのみの契約になった現状においては、新しいタイトルの追加はもとより、現在利用できるタイトルの維持も難しくなっている。

一方、電子ジャーナルの利用については、ルールに従った利用が不可欠である。今年度は学内の各部局でアクセス制限が相次ぎ、残念ながら金研でも1件発生した。アクセス制限が発生すると、解決するまでの期間、所内または大学全体でその出版社のジャーナルを利用することができなくなり、研究活動に多大な影響を及ぼす。図書室では毎年注意喚起を行っているが、今後もさらに周知を徹底していきたい。



*Online数は共同購入のうちの電子ジャーナルのみ利用できる数

*2008年度の購入額の下落は全学的基盤経費の措置が主な要因であり、2009年度および2011年度の下落は円高の影響によるものである。

4. 蔵書管理

4.1 図書の充実

限られた予算の中で常に図書の充実を図っている。継続的な購入は、個々の研究室や研究者では購入しにくいシリーズものやハンドブック、データ集を主な対象として行っており、その他国際会議録も収集している。また、他大学への複写依頼が多い図書や、物質材料分野の基本的な図書、研究室・図書整備委員から推薦された図書等について、新刊カタログなどを参考に購入し、充実を図っている。今年度は 217 点の図書を推薦により購入した。昨年度設けた新着コーナーは、カウンターに立ち寄った方々の目にとまるようであり、他の図書の貸出のついでによく利用されている。

電子ブックの整備は随時検討しながら行っており、今年度は 8 点を新たに購入した。他館でも積極的に購入を進めており、大学全体で利用できるタイトルは大幅に増加している。今年度より蔵書検索システム (OPAC) で電子ブックが直接検索できるようになった。現在、全ての電子ブックの登録作業を進めているところであり、より見つけやすく、より使いやすくなるよう整備していく予定である。

4.2 蔵書点検

毎年 2 回、書庫の蔵書点検を定期的に行い、不明図書・発見図書の確認や配架整備を行っている。今年度の点検では、これまで以上に不明図書が発生した。その後多数の図書は返却されたが、教授会でも注意を喚起した。図書は共有財産であるので、貸出手続の徹底や返却期限の厳守を呼びかけていきたい。

4.3 金研出版物の保存

金研で発行される報告書や広報誌などは、可能な限り図書室で収集し、保存している。また、それらに対する問い合わせも増えていることから、過去に発行されたものについても収集することを考えている。

5. 利用者サービスの充実

利用者との距離が近い部局図書室の利点を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

5.1 利用者向け講習会

毎年春に、金研の新構成員のために図書整備委員を講師として、主要なデータベースの講習と図書室のオリエンテーションを行っている。今年度は震災の影響で 5 月開催となったが、昨年度よりも多い 55 名の参加があった。内容は毎年見直しを行っており、今回は論文データベース『International Tables for Crystallography』を対象に加えて周知に努めた。

さらに、各種データベースの説明会開催も、機会を捉えて積極的に協力し、学生や研究者がより効率的に利用できるようサポートしている。

開催日	内 容	主 催	参加者
2011.5.20	金研図書室オリエンテーション (15:30-17:00) 第1部 図書室オリエンテーション ・ 図書室の設備と基本的なサービス ・ 資料の検索と入手のコツ 第2部 各種データベースの使い方 ・ ICDD Cards ・ Alloy Phase Diagrams Online ・ International Tables for Crystallography ・ Scopus , Web of Science ・ GeNii	図書整備委員会 図書係	55名

5. 2 情報検索コーナー

図書室では図書整備委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを厳選し、図書室の情報検索コーナーで利用者が常時使えるように環境を整えている。またパソコンの安全対策として、ウィルスチェックソフトとハードドライブシールドソフトを導入している。近年、データベースのオンライン化を進め、研究室から利用できる環境が整ってきているが、契約上図書室でしか使えない重要なツールもあり、今後も情報検索コーナーの充実を進めていきたい。

オンライン	CD-ROM
Alloy Phase Diagrams Online	Binary Alloy Phase Diagrams
ICSD	ICDD Cards (Powder Diffraction File)
International Tables Online	Pauling File
Phase Equilibria Diagrams Online	Pearson's Crystal Data
Scopus	CRC Handbook of Chemistry & Physics
Web of Science	鉄鋼便覧
Journal Citation Reports	Database of Titanium Properties
SciFinder Scholar	その他
GeNii (CiNii, KAKEN 等)	
その他	

5. 3 ホームページの充実

図書室では、有用な情報をいち早くキャッチし、「お知らせ」での広報やリンクを作成するなど、充実したホームページとなるよう心掛けている。

特に電子ジャーナルのリンク集（金研版）は 2 か月毎に係員全員でリンクチェックを行うなど、きめ細かなメンテナンスを行い、利用に支障のないようにしている。また、各サービスの利用案内やデータベースに関する Q & A なども掲載し、利用者の疑問がホームページ上ですぐに解決できるよう充実を図っている。

さらに、他にあまり例のない国際会議録のページについては、金研に関連する 44 の会議について、過去の会議録を追跡調査し、最新の所蔵情報も継続して掲載するようメンテナンスを行っている。

5.4 「金研図書室だより」の発行

学術情報や図書室の最新情報をお知らせするため、「金研図書室だより」を随時発行している。ホームページにも最新情報を掲載しているが、個々の利用者に図書室をより身近に感じてもらえるように、印刷物として発行している。



No.6 (2011.7)



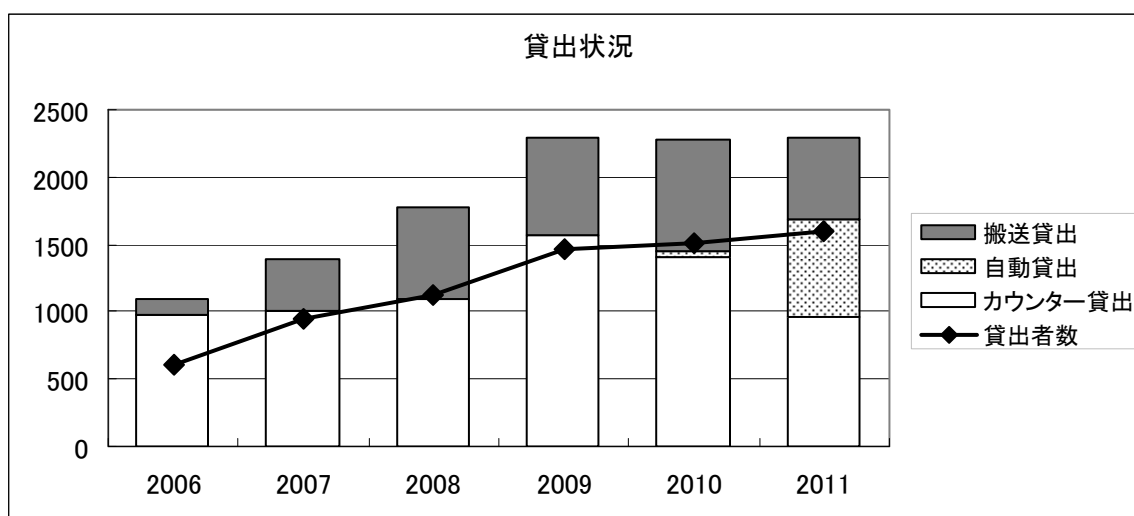
No.7 (2011.9)

5.5 資料の貸出

2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、4月は部分開室、夜間・休日の閉室等の措置をとったが、5月9日に3号館書庫の復旧作業が完了し、5月16日より24時間開室を再開するなど、5月中旬から平常通りのサービスを提供することができた。比較的早期に復旧したためか、貸出総数は昨年より微増し2,299冊となった。内訳では、金研図書室所蔵資料の貸出が増加し、反対にキャンパス間資料搬送サービスで取り寄せた図書の貸出が減少した。金研図書室資料の利用が増加した理由としては、1年間で図書を200冊ほど新規購入したほか、カウンター横に新たに新着図書コーナーを設置したことで、利用者の目を引くようになったことが考えられる。搬送サービスは5月9日に再開したが、他館図書の受取が485冊、金研図書の発送は132冊、金研から各館への返送は871冊と、利用はいずれも減少した。

また、3号館書庫資料のバーコード外貼り作業を進め、今年度より自動貸出装置の本格運用を開始した。試行期間中は開室時間中のみ起動していたが、2011年7月より夜間・休日の閉室中も利用できるようにした。貸出総数のおよそ1/3程度は自動貸出装置によるものであり、その利用頻度は高い。

今後も有用な図書の充実に一層努め、利用に供していきたい。



5.6 利用環境・施設の整備

平成21年度から書庫の電動集密書架リプレースを順次進めてきたが、今年度は残りの1ブロックの更新を終えることができた。これにより、当分の間は故障の心配をせずに安心して利用できるようになった。また照明の自動消灯等、省エネ効果も高まった。

今年度の夏は東北電力の電力供給切迫のため、金研においても大幅な節電を求められたが、図書室では、複写室の常時消灯やコピー機の稼働台数削減、照明の縮減、空調温度の設定変更などを行った。また、対策の1つとして「うちわ」の貸出を行った。



電動集密書架リプレース作業の様子



貸出用うちわ

5.7 図書館サービスに関する利用者アンケート調査

2011年11月17日から12月16日の間、本学附属図書館の本館・分館・図書室全体での利用者アンケート調査が実施された。この調査は北米研究図書館協会が開発・提供している「LibQUAL+(R)」という図書館アンケートシステムを使用したもので、Webサイトにアクセスの上、45の設問について、最低限のサービスレベル、希望のサービスレベル、実際のサービスレベルをそれぞれ9段階で評価する仕組みとなっている。

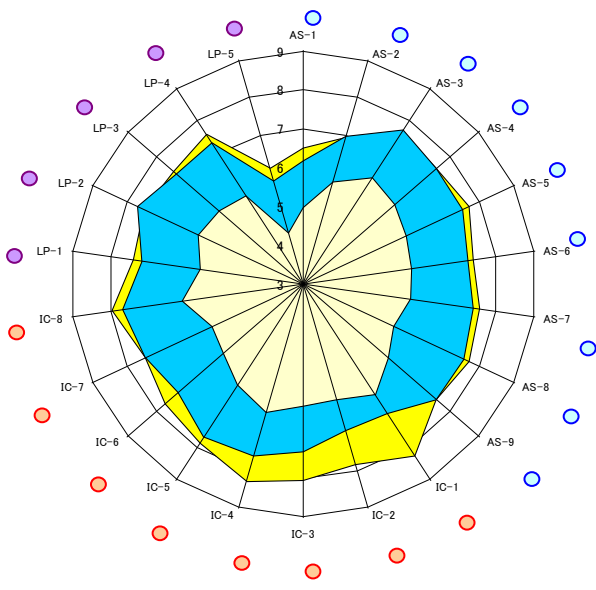
集計も「LibQUAL+(R)」の集計方法で行った。金研図書室を「よく使う図書館」と回答した38名の内、学生・教員28名分の回答を対象に、22の設問を「サービスの姿勢(AS: Affect of Service)」、「情報のコントロール(IC: Information Control)」、「場所としての図書館(LP: Library as Place)」の3つのカテゴリにまとめて傾向を分析した。その結果、全体として満足度は他館と比較して高いが、「情報のコントロール」のカテゴリ、具体的には「自宅または研究室からデータベースや電子ジャーナルなどの電子資源にアクセスできる」「私が必要とする電子情報資源(電子ジャーナルやデータベース)が揃っている」等の電子情報資源へのアクセス環境の向上に関して要望が高く、かつ満足度が低いことがわかった。また、学生と教員を比較すると、学生の要望が高く、かつ満足度が低い傾向であった。

今回は回答数が少なかったため(学生・教員の回答率6.4%)、この結果が正確に金研図書室の現状を表しているとは言いがたいが、今後のサービスの質向上のための参考にしたい。

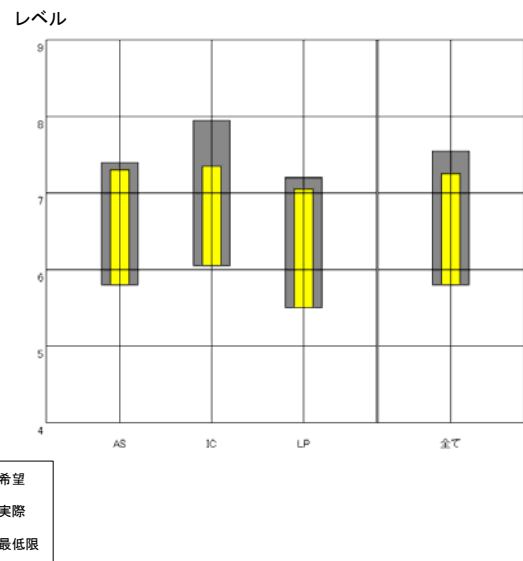
■主な設問

サービスの姿勢 (AS: Affect of Service)	
AS-1	図書館スタッフは利用者に自信を持たせてくれる
AS-2	図書館は利用者一人一人を大事にしている
AS-3	図書館スタッフはいつも礼儀正しく、丁寧である
AS-4	図書館には利用者の質問に進んで答えようとする姿勢がある

AS-5	図書館スタッフは利用者の質問に回答できる知識を持っている
AS-6	図書館スタッフが利用者に気配りのある対応をしている
AS-7	図書館スタッフは利用者のニーズを理解している
AS-8	図書館は進んで利用者に協力してくれる
AS-9	図書館利用において利用者が困っている事について、信頼できる対処の仕方をしている
情報のコントロール (IC: Information Control)	
IC-1	自宅または研究室からデータベースや電子ジャーナルなどの電子資源にアクセスできる
IC-2	図書館のウェブサイトは、利用者が自力で情報を見つけられるように作られている
IC-3	私の学習・研究のために必要な本や雑誌(紙)の資料が揃っている
IC-4	私が必要とする電子情報資源(電子ジャーナルやデータベース)が揃っている
IC-5	必要な情報に容易にアクセスできるような最新の機器・設備を備えている
IC-6	私自身の力で必要なものが探せるような、使いやすいアクセスツールがある
IC-7	人に頼らず簡単にアクセスできるように、情報が提供されている
IC-8	私の研究に必要な雑誌が、印刷版または電子ジャーナルとして収集されている
場所としての図書館 (LP: Library as Place)	
LP-1	図書館は学習・研究意欲をかきたてられるような場所である
LP-2	ひとりで学習・研究するための、静かな空間がある
LP-3	快適で、また行きたくなるような場所である
LP-4	学習、研究、調査のためのとっておきの場所である
LP-5	グループ学習や共同研究のためのスペースが整っている



22 の設問についてのレーダーチャート



カテゴリ毎の希望値と認知度

5.8 その他

他の部局図書室と同様に、これまで昼休みはカウンター業務を休止していたが、昨年1年間試行を実施した結果、一定の利用需要があることが確認できたため、今年度から正式に実施することとなった。

2011年6月14日に本学附属図書館が百周年を迎えたことを受け、金研図書室でも本館・分館と併せてイベントを開催した。利用者の方々に図書館に対する百周年のお祝いや日頃思っていることなどを

カードに書いてもらう「100回目の誕生日に贈る 図書館へのメッセージ」と、当日貸出もしくは返却した方へ、百周年記念クリアファイルを進呈する「本を借りたらゲット！ 記念日限定グッズ」の2つのイベントを行った。「図書館へのメッセージ」には、「いつも使っています。さらなる成長に期待します。」「100年間もたくさんの本に触れる場を維持してくださってありがとうございます。これからも利用させていただきます。」「Happy Birthday for the Library」などたくさんの温かいメッセージが寄せられた。



6. 文献複写・現物貸借（図書館間相互利用サービス）

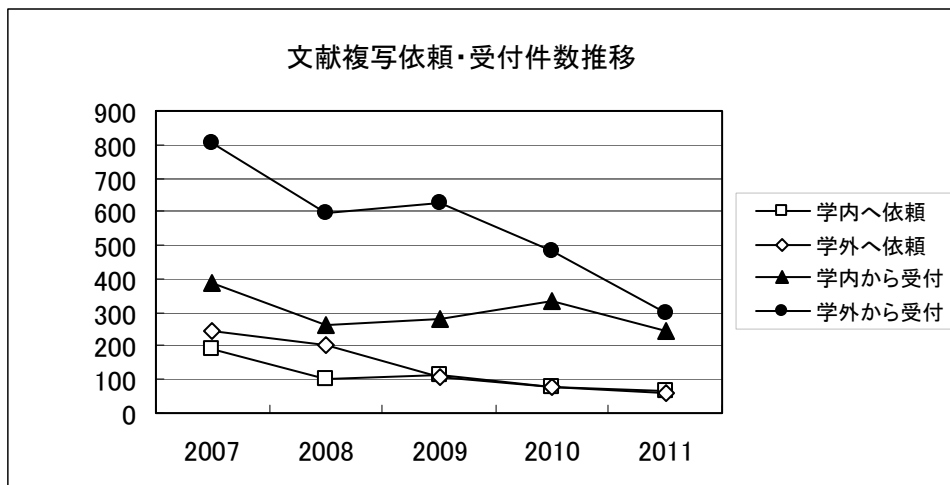
学内の各図書館および学外の大学図書館との相互の文献複写サービスは、研究者の研究遂行上、学術雑誌論文が欠かせないため、金研における重要な業務の一つとして、必要な論文を依頼から1週間以内に利用者へ手渡せるよう迅速に処理している。ただ、学術雑誌の電子ジャーナル化の影響で全国的に文献複写サービスの件数は減少傾向にあり、金研においても同様である。他館への依頼件数の減少は、研究者が学内で必要な文献を直接電子的に入手できていることの表れであると言え、本学の学術情報整備計画の成果と考えられる。

ここ数年、学外からの複写受付件数は大幅に減少しているが、これは外国雑誌の冊子体を段階的に中止してきたためと考えられる。また、今年度は東日本大震災発生後、他大学の配慮により被災地大学への複写依頼が抑制されたことも受付件数減少の一因となった。しかし、このような状況の中でも、今年度の他館からの受付件数は本所から他館への依頼件数の4倍以上である。このことは、金研の学術雑誌コレクションの充実度を示すと共に、全国共同利用・共同研究機関としての使命達成に貢献しているといえる。

また、文献を画像化してオンラインで送受信する画像伝送システムも利用されている。著作権法や出版社許諾の範囲内という制約はあるが、学内限定で行っているe-DDS (Electronic Document Delivery Service) は、研究室に居ながらにして申し込み、迅速に受け取りができるため、利用者に好評であり、利用が増加している。

長年の懸案であった他大学図書館との図書現物の貸借について、今年度から金研での処理を正式に開始した。図書館の相互利用制度 (ILL: Inter-Library Loan) は、「相互」に提供し合うことが原則であるため、金研の図書室資料についても他館の依頼に応じて貸出を行っている。

今後の課題としては、私費払いへの対応が挙げられるが、引き続き検討中である。



7. 東日本大震災の被害と復旧

3月11日に発生した東日本大震災で、多数の雑誌・図書が落下し、一部の書架が転倒するなどしたが、幸い利用者・職員とも人的な被害はなかった。昨年度中に閲覧室・書庫の復旧を終え、今年度は4月1日から開室することができた。被害の大きかった3号館の復旧は、余震が多発していたため、安全を考慮し常に二人以上で行い、5月9日に完全復旧することができた。所内の入館時間制限の解除とともに、5月16日には夜間・休日の24時間開室を再開した。

被災状況としては、閲覧室での資料の落下は主に低書架からであり、落下防止器具を取り付けた高書架からはほとんど落ちなかった。書庫の電動集密書架は、地震で開いた狭い通路に多数の資料が落下して堆積していた。密接している棚でも資料が中で動いており、通路を開ける度に次々と資料が落下する状況で、復旧作業は困難を極めた。3号館書庫は4階にあり、高書架に落下防止器具を付けていたが、落下資料の総数は多く、1,831冊にのぼった。さらに、棚間上部を連結せず壁固定のみを施していた書架1連が倒れ、また配架資料の少ない軽い書架が動いて蛍光灯が割れる等、被害が大きかった。落下した資料は、表紙がはずれる、ページが破れる等の破損も多く見られた。

4月7日深夜の余震でも図書が落下したが、本震の教訓から事前に落下防止対策や復旧作業の工夫を行ったため、被害としては少なく済むことができた。

このような被災状況ではあったが、学内の他の図書館・図書室と比較すると金研の被害は格段に少なく、早期に復旧することができた。立地や規模の差もあるが、この数年間で棚の固定や落下防止等、地震や安全への対策を進めていたことが功を奏したと思われる。

今年度はさらに対策を強化した。3号館書庫では、落下図書を整理した後、テクニカルセンター職員の尽力により転倒した書架・揺れでずれた



書架の連結や床固定が行われた。その後、多くの図書が落下した書架横の棚受部品を交換し、上部の棚には落下防止バーを増設した。1号館閉架書庫の書架にはゴム紐をつける、棚板に滑り止めシートを敷くなどの対策を施した。また、図書の間に隙間があると落下しやすいことから、滑りにくいタイプのブックエンドを購入し、図書を安定させることとした。各室には随所にヘルメットや非常用ライトを設置し、非常口サインも一新した。

今年度は破損した図書の修理も行った。状態の悪いものは業者へ修理製本を依頼したが、その他の軽微なものは職員の手で直した。

今後も利用者の利便性を考慮しつつ、安全性を損なわない対策を引き続き図っていきたい。



■被災状況

部屋	落下冊数	復旧作業	備考
閲覧室(2号館2階221)	112冊	3/23	棚の落下防止バーが有効に作動
書庫(2号館2階218)	620冊	3/23-24	停電と揺れにより集密書架間の複数の通路が開く
閉架書庫(1号館2階215)	123冊	3/25	
3号館書庫 (3号館4階401)	1,831冊 (余震:74冊)	4/4-27	棚の落下防止バーが有効に作動 壁際の書架1連転倒 書架の移動により蛍光灯器具1台破損

合計 2,686冊 (破損80冊)

■復旧状況(平成23年度)

4/1	図書室再開(8:30-17:00)
4/4	3号館書庫の復旧作業開始
4/8	4/7余震の再復旧作業
4/20	3号館書庫の転倒書架の再固定、および全書架の床固定作業(テクニカルセンター)
4/27	3号館書庫復旧作業終了
5/9	昼休みカウンターおよび3号館書庫利用再開 (全学)キャンパス間資料搬送サービス再開
5/16	所内の滞在時間制限解除により、夜間・休日の利用再開
6/1	(全学)MyLibrary(オンラインサービス)再開

8. その他

研究支援の役割を確実に果たし、また利用者のニーズに応えた多様なサービスを提供するため、図書室職員は各種研修会に積極的に参加している。また図書系職員として、図書館本館が中心になって進めている各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

8.1 研修等

- ・ 目録システム講習会（図書コース）
- ・ 図書館職員総合研修
- ・ 武内文庫整理会
- ・ 事務情報化講習会

8.2 各種委員会、ワーキンググループ、会議等

- ・ 図書館情報教育支援 WG
- ・ 東北地区大学図書館協議会職員研修 WS
- ・ 附属図書館部課長打合せ
- ・ 全学図書系係長等会議
- ・ 附属図書館商議会（陪席）
- ・ 附属図書館運営会議（陪席）
- ・ 学術情報整備検討委員会（陪席）
- ・ 分野別資料選定 WG（陪席）

9. 統計（平成 23 年度）

■施設

総面積	書架総延長	図書収容能力	総閲覧座席数	パソコン台数	複写機台数
534 m ²	2.38km	6.6 万冊	50 席	6 台	4 台

■資料

		和書	洋書	合計	
蔵書	蔵書冊数	18,800 冊	64,466 冊	83,266 冊	*開架冊数:47,948 冊
	年間受入冊数	370 冊	369 冊	739 冊	
雑誌	雑誌種類数	431 種	975 種	1,406 種	
	年間受入雑誌種類数	163 種	129 種	292 種	
	電子ジャーナル数(全学)	451 種	13,437 種	13,888 種	
	新聞種類数	6 種	1 種	7 種	

*蔵書は研究室貸出分や製本雑誌を含む

*受入：購入・受贈・保管場所変更等により図書室の蔵書として登録すること

■サービス

開室日数	サービス対象		入室者	貸出	文献複写		現物貸借	
	教職員	学生		貸出 (搬送)	依頼	発送	借用	貸出
239 日	367 人	203 人	15,109 人	2,299 冊 (620 冊)	124 件	541 件	10 件	4 件

*2011.3.11 に発生した東日本大震災のため、4/1-5/8 は 3 号館書庫閉室、4/1-5/6 は夜間・休日完全閉室